

## 卒業生の保護者アンケート 1

- ① 進学先 日本大学芸術学部演劇学科
- ② 入試形態 一般推薦
- ③ 進路を決めた時期・理由 2年次 夏頃、本人の強い希望
- ④ 勉強方法 塾(定期授業・模試)
- ⑤ ④についての詳細 2年次、冬～通塾、必要科目のみ
- ⑥ ⑤で感じたメリット・デメリット  
⇒良かったのか、悪かったのか、今となってはよくわかりません。
- ⑦ どのようにサポートしたか。在校生保護者へのアドバイスなど。  
⇒本人がやりたい事を最優先するようにしました。

## 卒業生の保護者アンケート 2

- ① 進学希望先 浪人、美術系大学志望
- ② 入試形態 一般入試
- ③ 進路を決めた時期・理由 2年次の冬頃。  
自分の可能性についてしっかり考えた末の結論だと思います。  
子どもの決定を尊重し、特に「こうした方がよい」などとは言い  
ませんでした。
- ④ 勉強方法 予備校(定期授業・夏期講習・模試)
- ⑤ ④についての詳細 ・1年次から、予備校の模試(年3回程度)  
  
2年次の冬期講習から、夏期、冬期、春期など季節講習  
(3年次の平日授業に学科(国・英)含む)  
3年次から、放課後(月～金)
- ⑥ ⑤で感じたメリット・デメリット  
⇒美術系に進むのであれば、できればもっと早く進路を決めた方がよかった。基礎的な技術を  
身につけるのに、それなりに時間と量が必要だということを、予備校に入ってから知った。  
予備校の選択も、とても重要だということも一浪した後知った。  
進学先に応じてよく考えて選んだほうが良い。
- ⑦ どのようにサポートしたか。在校生保護者へのアドバイスなど。  
⇒帰宅が遅くなるので、車で最寄駅まで迎えに行った。その日の出来事(よかった事も悪かった事も)  
出来る限り聞いてやるようにした。経済的にはとても苦しい(美術は用具代などにお金がかかる)ので  
パート始めました。遠回りかも知れないけれど、子どもの人生は子どものもの。その決定をできるだけ  
尊重し、経済的事情などを言いたてて、子の将来を親の思うように曲げるなどはしたくないものです。  
神奈総を選んだお子さん達は、きっと自分の道をあやまらず選んで歩いて行くと、そう心から信じます。  
親はあわてず、さわがず見守り支えていきましょう。

### 卒業生の保護者アンケート 3

- ① 進学先 横浜薬科大学薬学部健康薬学科
- ② 入試形態 一般入試
- ③ 進路を決めた時期・理由 学園祭に行って、薬科大を卒業しても薬剤師以外の進路があることを知って。
- ④ 勉強方法 家庭教師
- ⑤ ④についての詳細 16日間×2時間 化学

⑥ ⑤で感じたメリット・デメリット

⇒短期で分からない所を集中して勉強できる。一般的でないのをおすすめしません

⑦ なし

### 卒業生の保護者アンケート 4

- ① 進学先 慶応義塾大学環境情報学部
- ② 入試形態 学校推薦に落ちて、一般入試
- ③ 進路を決めた時期・理由 3年次の春休み前、具体的に大学・学部を決めましたが、複数あり、最後まで第一希望の2校をどちらにするか、決めかねていました。結果、公募推薦には落選しました。
- ④ 勉強方法 予備校
- ⑤ ④についての詳細 →高額商品です。科目ごとに73,500円でした。(その他費用あり) 神奈総の授業の空きは予備校通いしてました。6~7科目、受講しました。担当のチューター(大学生)さんが、優秀な方で本人も親も満足しました。

⑥ ⑤で感じたメリット・デメリット

⇒本人が他予備校と比較して、自分に合っていると判断し、予備校に決めました。本当は、もっと科目数を受講したいようでしたが、こなしきれないと親が判断し、減らさせました。が、12月頃に、本人の希望で1つ追加しました。

⑦ どのようにサポートしたか。在校生保護者へのアドバイスなど。

⇒健康面だけは口うるさい母となるよう、心がけていました。インフルエンザの予防接種、手洗い、うがい、マスク着用、食事抜きがないように、弁当と菓子パンなど毎日用意しました。国公立後期まで受験予定で、予防接種はセンター後にもう一回追加させたかったのですが、ワクチンが品切れで出来ませんでした。又、朝、早めに起きる習慣ができました。

### 卒業生の保護者アンケート 5

- ① 進学先 上智大学経済学部経済学科
- ② 入試形態 帰国子女
- ③ 進路を決めた時期・理由 高2の進路を考える会に参加して、先輩の話を聞いて。
- ④ 勉強方法 塾(定期授業)
- ⑤ ④についての詳細 高3の4月から、予備校に週2回(国・数)
- ⑥ なし

⑦ どのようにサポートしたか。在校生保護者へのアドバイスなど。

帰国卒受験で9月からの受験だったので、周りがのんびりしている中、娘の尻をたたいて勉強させました。

### 卒業生の保護者アンケート 6

- ① 進学希望先 心理学系・浪人
- ② 入試形態
- ③ 進路を決めた時期・理由 高2春。友人の影響かと思います。  
高1の頃は、音楽系を目指していましたが、途中で方向転換。  
親としては応援するだけでした。
- ④ 勉強方法 予備校(定期授業・夏期講習・模試)
- ⑤ ④についての詳細 高1から 塾、週3回程度

⑥ ⑤で感じたメリット・デメリット

⇒塾、予備校については、カリキュラムや講師によって、かなり異なる。  
本人のやる気等が一番だと思うが・・・。

⑦ どのようにサポートしたか。在校生保護者へのアドバイスなど。

⇒とにかく、子どもの行きたい進路、学校を尊重しました。妥協や弱気になっている時は、とにかく本人が納得できるかどうか問い詰めました。経済面でも浪人もあらかじめ認めていました。

※メールにて体験談を寄せてくださった方のお話です。

さて、アンケートの回答です。

娘は音大に進学しましたので、一般受験生とは異なります。

かなそうには芸術系の大学に進学する生徒さんも多いですね。

進路を考える会でも、芸術系の受験生と親御さんをサポートする企画をお願いします。

娘は一般入試で洗足音楽大学 音楽学科ピアノコースに進学しました。

洗足の教授に中学の時から師事していて、入学後もその先生についています。

音大の入試は実技試験やソルフェージュはもちろんですが、洗足では作文とそれを踏まえた面接もありました。

その作文では、かなそうのテーマ研究で取り組んだ「音楽療法」について書き、面接でも

好印象だったと教授から聞きました。

テーマ研究が推薦入試で役に立つことがあるとは聞いていましたが、場合によっては

一般入試でも生きてくるのですね。

娘は同じく音楽をやっている友達にも協力してもらって、実践的に音楽療法に取り組んだ

甲斐がありました。</div>

受験のサポートで、一番大変だったのは、去年の夏のコンクールに惨敗した時でした。

ピアノへの自信を失い「やめたい」と本気で考えていたようです。

芸術を志す多くの生徒さん、親御さんは一度や二度は経験されていると思います。

引き止めてくれたのは、洗足のその教授でした。

悩み迷う子供に寄り添い、一緒に悩んでよりよい選択へ導く、そんな親の務めは

果たせたかなと思います。

芸術の世界の敷居の高い先生を相手に、萎縮してしまいがちな子供が少しでもリラックスできる

環境の提供、そうした先生に対しても、いざと言う時には親として子供の気持ちを代弁し、最善の道への

アドバイスを求めること。

抽象的なのですが、音楽の道に進む子供に親が出来ることは限られる上に、難しいものですね。

在校生の保護者の皆さんには、三年間はあつと言う間だと申し上げたいです。

気がついたら子供は、選べる進路が限られるカリキュラムを組んでしまいがちです。

1年次から、親向けにもカリキュラム説明会をしてほしいと思っただけです。

せめて『総合生のための進路ガイド FRONTIERS』は隅々まで読み込み、

不明な点は親子で解決しましょう。

「進路を考える会」の内容とは異なりますが、熊猫ファミリーさんのご協力で北京大学に留学されたかたの体験談を掲載できることになりました。留学を考えている方には是非読んでいただきたい内容です。

神奈川総合高校国際文化コース

15期卒業

### ① 進路選択を振り返って高校時代にやっておいたら良かったこと

高校時代にもっとやっておけば良かったことが一つあります。それは、もっと笑っておけば良かったということです。高校生は、心も体も毎日変化するのでとても難しい時期だったと思います。親、先生、友達との距離感も変わっていきます。何のために勉強をするのか、何のために大学に進学するのか、何をしている時が一番楽しいのかなど、答えの出しにくい問いを私はずっと考えていました。こうした将来への不安と日々の焦りがあり、私は心身ともに余裕がありませんでした。今思えば、答えられない問いを考えているより、高校時代を思いきり過ごして、信頼できる人ともっとたくさん笑っておけば良かったと思います。そのうち自ずと自分の中にその分からなかった答えも出てきます。

正直に話すと、一所懸命選んで入った大学であっても蓋を開けてみたら、ほかの大学とそれほど変わらなかったりします。(専門分野の大学には当てはまらないと思いますが)

授業のレベルも、学生のレベルも、「カナソウ生の方がよっぽどレベルが高かった」と思うかもしれません。しかし、そういう考えはとてももったいないと思います。大学を自分の目で見てしっかり選ぶことはもちろん大切ですが、何より自分の受かった大学についてたくさん調べ、情報収集することをお勧めします。私は入学後、分からないことは直接聞きにどこにでも足を運びました。そのおかげで、事務の方と仲良くなり入学前は知らなかった留学プログラムを教えてもらい、奨学金をもらいながら留学することが叶いました。情報を収集して、自分に合ったものを選択していく。高校では限界があったことが大学ではできる、とても自由度の高い学びの場なのだ実感しています。どの道に進んでも、そこをどれほど自分らしく生きやすい場にするかが大切だと思います。

### ② 留学準備、実際に留学してみたの体験談

留学準備はとても大変でした。留学する前に準備することは二つあると思います。一つは心の準備です。自分はどのようにその国に行きたいのか、その国に行って何を学びたいの

かを考えることです。行く前に答えが出なくてもかまいません。単純に語学を学びたいとか、就職につなげたいという目標でも大丈夫です。また留学中に目標がどんどん変わっても大丈夫です。重要なのは、自分が何をしたいのかを常に忘れないでいるということです。留学はあっという間に時が経ちますし、毎日の生活でいっぱいであり余裕がありません。そのために行く前にそうした心の準備をして行くことをお勧めします。

もう一つは書類の準備です。日本の大学に提出するもの、現地の大学に提出するものがたくさんあります。一人で大変だと思ったら、信頼できる大人（親、先生、事務の方）と一緒に確認しながら準備すると安心です。留学はみんなが応援してくれます。多くの人を頼ってください。

私は中国の北京大学に一年留学しましたが、実際に留学して大切だと思ったことが二つあります。一つは、他人に流されないということです。留学すると、日本から離れているという緊張感と家族が近くにいないという不安でとても心細く感じました。そのため、ついつい同じ日本人学生と固まって行動することがありました。しかし、それは私が望んでいた留学生活ではありませんでした。そのため、私は先ほど言ったように自分が何をしたいのか、何を学びに来たのかを思い出し、考えました。また頻繁に家族と連絡をとりました。話すとともにすっきりして、不安もなくなっていきました。家族でなくとも、信頼できる大人や友人でも構いません。限られた時間をより充実させるために、心を安定させ、ぶれないで生活することが重要だと知りました。

もう一つは、日本についてたくさん学んだということです。大学の教授に何度か日本についてのプレゼンを頼まれました。尖閣諸島問題、首相の靖国神社参拝問題などを発表するため、私は一から勉強しました。カナソウでの学校生活で、外国人の学生に日本文化紹介をして交流することは慣れていましたが、自分がこれほど日本を知らないとは思っていませんでした。また、外国では自分の発する言葉が日本を代表する意見になります。自分の言動にこれほど責任感を感じたのは初めてでした。留学したからこそ、日本についての理解が深まったと感じています。

私は留学できる環境があるならば、できるだけ行ってほしいと思います。楽しいことばかりではないけれど、自分を大きく成長させてくれる経験にきっとなります。たくさん迷って、たくさん悩んで、たくさん笑って過ごしてください。応援しています。